

たので、之を母体として單一労働組合促進同盟なるものを設けて全従業の關心を繋ぐと共に、此の間兩組合の合同を促進することとなり遂に三派合同に依り全従業員を包容する親の下に單一労働組合が形成せられたのである。

右の事情に依り日本製鐵従業員組合は結成せられたのであるが之に先んじて、八月八日日本主義を奉ずる日本産業労働協進組合が組織（既報の通）され次第に鐵聯同志會の地盤を侵蝕し、且つ一方では既成政黨たる政、民、國同、三派於ても、夫々製鐵所従業員獲得を目的に策動が行はれてゐるので、一般従業員は其の去就に迷ひ混沌たる状態は、日本製鐵新會社の出現を前に、製鐵所に於ける労働組合の清算時代とも謂ひ得べく、此の際鐵聯同志會中心の新労働組合が果して幾許の勢力を扶殖し得るかは注目せらるゝところであり無論

樂觀を許されないのであらう。

以下單一労働組合結成の事情を経過的に述べたのである。

尙本件に就ては報告第一三七號伊藤卯四郎氏の「官民合同反對闘争の回顧と強力新労働組合結成の急務」を参照せられたる。

二、製鐵官民合同反對同盟會より單一労働組合促進同盟へ。

1、製鐵官民合同反對同盟會解消

製鐵官民合同問題に對し製鐵所全従業員を以て（鐵聯、同志會を中心）組織したる合同反對同盟會は、法案通過後も其の儘存置せられてゐたが、七月六日常任委員會を開催（三十名出席）して、會計報告（同盟會總收入二、三八一圓五七一圓支出二、八一四圓四七一圓不足四三二圓九〇）不